

令和 3 年度上半期業務実績等報告書

(第 3 期中期計画・第 2 事業年度)

令和 3 年 12 月



地域の明日を医療で支える
地方独立行政法人 **長野県立病院機構**

< 目 次 >

1	信州医療センター	1 頁
2	こころの医療センター駒ヶ根	6 頁
3	阿南病院・阿南病院訪問看護ステーションさくら ・阿南介護老人保健施設	13 頁
4	木曾病院・木曾介護老人保健施設・木曾病院介護医療院	22 頁
5	こども病院	29 頁
6	信州木曾看護専門学校	37 頁
7	本部研修センター・本部事務局	41 頁

※表について、年度計画に目標数値を定めている項目については「R3 上半期年度計画」及び「対年度計画」欄を記載しており、目標数値を定めていない場合、当該欄は削除しています。

2 病院等別

2-1 信州医療センター

【理 念】

私たちは患者中心のチーム医療を実践し、信頼される病院を目指します。

【基本方針】

- 1 人と人とのつながりを大切にし、心が満たされる医療を提供します。
- 2 医療の質の向上を図り安全な医療を行います。
- 3 医療・保健・福祉との結びつきを強化し、地域住民の健康増進に寄与します。
- 4 地域医療を担う優れた人材を育成します。
- 5 感染症医療の拠点病院として、先端医療を提供します。
- 6 病院機能の維持発展のため、健全な経営を行います。

2-1-1 総合評価

【成 果】

ア 産科医療体制の充実

産後の母親を支援する産後ケア「須坂モデル」の実施により、産科医療を充実

区 分	R 3 上半期 実績	R 3 上半期 年度計画	対年度計画	前年度 上半期実績	対前年度 実績
分娩件数	120 件	125 件	△ 5 件	122 件	△ 2 件
産後 ケア					
宿泊型	24 人	-人	-	18 人	6 件
デイサービス型	2 人	-人	-	4 人	△ 2 件

・分娩件数は上半期目標件数に及ばなかったが、年度末までの分娩予約は 252 件となっている。

イ 在宅医療の提供

訪問看護の強化により、在宅療養に寄与

区 分	R 3 上半期 実績	R 3 上半期 年度計画	対年度計画	前年度 上半期実績	対前年度 実績
訪問診療	133 件	130 件	3 件	131 件	2 件
訪問看護	2,281 件	2,100 件	181 件	2,293 件	△ 12 件
訪問リハビリ	2,157 件	2,150 件	7 件	2,192 件	△ 35 件
計	4,571 件	4,380 件	191 件	4,616 件	△ 45 件

ウ 感染症医療の提供

感染症医療の中核病院として、新型コロナウイルス感染者の積極的受入れ等、感染症拡大に対応

院内のワクチン接種と須坂市のワクチン集団接種会場への医師及び看護師の派遣により、ワクチン接種体制の強化に寄与

【感染者等受入数】

項目	R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
感染者受入数	112 人 延べ 1,384 日	195 人 延べ 2,181 日	△83 人 △797 日
疑い患者受入数	1 人 延べ 2 日	21 人 延べ 48 日	△20 人 △46 日
計	113 人 延べ 1,386 日	216 人 延べ 2,229 日	△103 人 △843 日

※長野圏域外からの受入割合 10.5%、長野市からの受入割合 42.3%、外国人の受入人数 8 人

【検査件数等】

検査種類等	R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
P C R 検査	771 件	42 件	729 件
抗原定性検査	2,005 件	87 件	1,918 件
抗原定量検査	3,489 件	0 件	3,489 件
発熱外来受入れ	5,702 人	126 人	5,576 人

【ワクチン接種件数】

項目	R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
住民	1,208 件	0 件	1,208 件
医療従事者	2,176 件	0 件	2,176 件
計	3,384 件	0 件	3,384 件

【市町村へのワクチン接種支援】

市町村名	延べ日数	派遣延べ人数	
		医師	看護師
須坂市	58 日	57 人	59 人

エ 内視鏡センターの運営

近隣市町村及び医療関係機関との連携により、検査を実施

項目	R 3 上半期実績	R 3 上半期年度計画	対年度計画	前年度上半期実績	対前年度実績
内視鏡検査件数	3,082 件	4,000 件	△918 件	2,899 件	183 件

- ・年度当初は、病院全体がコロナ患者の受け入れと感染警戒レベルに応じた対応を取っていたために 4 月、5 月の人間ドック受け入れ制限をかけていた。また、例年 6 月から実施している対策型胃検診においても受け入れ準備が整わず 7 月から実施した。

オ 医療従事者の養成と専門性の向上

総合内科医の養成及び特定行為ができる看護師の育成により、県の医療水準向上に寄与

総合内科医の養成	4月1日 総合内科医育成学講座(寄附講座) 開講 担当教員(内科系)2名を配置し、プログラム作成と専門医確保の準備を進めている。
特定行為に係る看護師の育成	9月30日 看護師特定行為研修(第1期)修了(受講生5名) 10月1日～血糖コントロールに係る薬剤投与関連を追加 第2期開講(受講生6名)

カ 働き方改革への対応

- ・夜間看護補助者の導入により看護師のタスク・シフトを推進

6月から南2階～南6階病棟に、夜間看護補助者計8人を配置。夜間看護補助者の業務内容の検討を行い、それに伴い日勤看護補助者の業務の見直しを実施。

対象病棟の看護師へのアンケートによると、84%が「タスク・シフトが進んだ」と回答している。また、これにより看護師は「直接的ケア」「看護記録」の時間が確保できるようになった。

キ 費用の抑制

- ・診療材料価格交渉を行い、コストを削減

本部事務局と当院の担当者及び医師が参加し、メーカー16社及びディーラー4社に対して価格交渉を実施。複数回の交渉により、昨年度の診療実績ベースで年額16,500千円の費用削減を達成

2-1-2 経営指標等

【経営指標】

信州医療センター 令和3年度上半期実績

項目	区分	R3上半期実績	R3上半期年度計画	対年度計画比	前年度上半期実績	対前年度比
延患者数	入院	36,531人	37,838人	96.5%	37,002人	98.7%
	外来	58,637人	55,833人	105.0%	54,256人	108.1%
新患者数	入院	2,066人	2,024人	102.1%	2,191人	94.3%
	外来	9,979人	9,991人	99.9%	8,184人	121.9%
1人1日 当たり 診療単価	入院	50,041円	45,073円	111.0%	48,537円	103.1%
	外来	18,266円	18,421円	99.2%	16,010円	114.1%
医業収益	入院	1,828,066 千円	1,779,057 千円	102.8%	1,795,959 千円	101.8%
	外来	942,154 千円	1,028,498 千円	91.6%	868,655 千円	108.5%
	合計	2,770,220 千円	2,807,555 千円	98.7%	2,664,614 千円	104.0%

平均在院 日数		15.2 日	16.9 日	△1.7 日	13.7 日	1.5 日
病床利用率		68.6%	74.6%	△6.0 ポイント	67.0%	1.6 ポイント
コメント	<p>◆入院</p> <ul style="list-style-type: none"> 入院患者数、病床利用率 手術の制限及び病棟の削減運用により対計画値で減少 入院単価 結核病棟（新型コロナウイルス感染症受入病棟）において、症状が比較的重い中等症患者割合が高まったため上昇 平均在院日数 即応病床確保のための手術制限及び地域包括ケア病棟の削減運用が影響したため対計画値で短縮 <p>◆外来</p> <ul style="list-style-type: none"> 外来患者数 対計画値・対前年度で増加し、コロナ禍以前の水準まで戻りつつある。 外来単価 新型コロナ関連の「行政検査」の対象者の割合が増加したため、対計画値で減少 					

項目	R 3 上半期 実績	R 3 上半期 年度計画	対年度計画	前年度 上半期実績	対前年度 実績
紹介率	29.5%	34.0%	△4.5 ポイント	35.8%	△6.3 ポイント
逆紹介率	28.3%	21.0%	7.3 ポイント	24.9%	3.4 ポイント
コメント	<p>◆紹介率</p> <ul style="list-style-type: none"> 即応病床確保のための地域包括ケア病床の削減等により減少 <p>◆逆紹介率</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題となっていた逆紹介率の向上は、院内啓発活動と診療部の協力等により、上半期年度計画の目標を大きく達成 				

【損益計算書】

信州医療センター

(税抜、単位：千円)

科目	R 3 上半期 累計 a	R 3 上半期 計画 b	対計画 増減 a-b	R 2 上半期 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	3,525,909	3,552,756	△26,847	3,402,398	123,511
医業収益	2,902,230	2,937,947	△35,717	2,786,166	116,064
運営費負担金収益	505,491	505,491	0	546,786	△41,295
その他経常収益	118,188	109,318	8,870	69,445	48,743
経常費用 (イ)	3,722,507	3,682,970	39,537	3,605,053	117,454
医業費用	3,546,663	3,507,126	39,537	3,421,940	124,723
給与費	1,869,503	1,847,864	21,639	1,850,312	19,191
材料費	866,696	852,848	13,848	842,324	24,372
減価償却費等	290,748	282,268	8,480	264,289	26,459
経費	514,808	517,904	△3,096	461,001	53,807
研究研修費	4,908	6,242	△1,334	4,014	894
財務費用	47,374	47,374	0	54,854	△7,480
その他経常費用	128,470	128,470	0	128,260	210
経常損益 (ア-イ)	△196,598	△130,214	△66,384	△202,655	6,057
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	△196,598	△130,214	△66,384	△202,655	6,057
病床確保料(エ)	308,282	242,731	65,551	0	308,282
病床確保料含む当期純 損益(ア-イ+ウ+エ)	111,684	112,517	△833	△202,655	314,339
コメント	<p>◆経常収益</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者数の減少及び県の要請によるコロナ病床確保のための病床数減の影響等により、医業収益は計画に対し 3.5 千万円の減 <p>◆経常費用</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員増による給与費の増加、感染対策用の物品の需要増による材料費の増加、補助金を利用した医療機器の購入に係る減価償却費の増加等により、計画に対し 3.9 千万円の増 <p>◆経常損益</p> <ul style="list-style-type: none"> 病床確保料を含まない損益で、2 億円の損失 				

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

2-2 このころの医療センター駒ヶ根

【理 念】

- 1 私たちは、患者さんの人権を尊重し、信頼される医療サービスを提供します。
- 2 私たちは、長野県の精神科医療の中核病院として、質の高い専門医療を提供します。
- 3 私たちは、医療安全を推進し、人にやさしい病院を目指します。

【基本方針】

- 1 患者さん一人ひとりと向き合い、権利の尊重と個別性への配慮に努めます。
- 2 救急・急性期を始めとする地域のニーズに応えるとともに、長野県の精神科医療の中核を担います。
- 3 良質で安全な精神科医療を提供すべく、専門的知識の習得と医療技術の向上に努めます。
- 4 多職種チーム医療を実践します。
- 5 保健・医療・福祉・教育機関と連携して、患者さんの地域生活を支援します。
- 6 精神科医療を担う人材育成と医療の質の向上のための研究・研修に取り組みます。

2-2-1 総合評価

【成 果】

ア 第3期中期計画の主要事業の実施状況

- ・令和6年度開設予定の「子どものころ総合医療センター（仮称）」について院内に3つの検討チーム（新病棟検討チーム、病床転換検討チーム、A1病棟・児童外来後利用検討チーム）を設置し、新病棟の運営方法、既存病棟の病床転換、後利用等のセンター開設に向け必要な各種検討事項を職員一体となり協議
- ・「児童・思春期、青年期精神科医療懇談会」を2回開催し、学識者・児童支援者・相談機関関係者等から広く意見・要望をいただくことで、「子どものころ総合医療センター（仮称）」のあり方、必要な機能等をさらに明確にし、基本計画の基礎部分となる基本構想を策定
- ・令和4年1月開設のm-ECTセンターについて、改修工事を開始するとともに、週2回・5人/日（現行3人/日）まで治療可能な体制について運用面の検討を開始
- ・令和4年3月開設予定の「依存症専門医療センター（仮称）」について、依存症治療運営検討委員会を開催し、センターの開設目的を中心に体制について検討を開始
- ・全3回のゲーム・ネット依存症チーム会を開催し、治療体制、家族支援、情報発信の3チームに分かれて、令和4年3月の治療開始に向けて診療体制を整備
- ・精神科地域包括ケアシステムの一資源として訪問看護サービスを提供するため、令和4年10月開設予定の精神科訪問看護ステーションについて、開設準備室を設置し検討を開始

イ 精神科救急医療の提供

- ・24時間365日対応により措置入院患者等を受入れ

区 分	R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
措置入院患者数	9 人	8 人	1 人

- ・ウォークイン救急患者（外来救急患者）への速やかで適切な入院治療を提供

区 分	R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
ウォークイン 救急患者数	42 人	40 人	2 人
内入院	17 人	24 人	△7 人
入院割合	40.4%	60.0%	△19.6ポイント

- ・専門医療の提供

区 分	R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
クロザピン（治療抵抗性統合失調薬）の投薬実人数	13 人	6 人	7 人
m-ECT（修正型電気痙攣療法）治療実施件数	101 件	132 件	△31 件

- ・栄養サポートチーム（NST）による多職種チーム回診を実施

区 分	R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
NSTによる多職種チーム新規回診件数	23 件 延べ217 件	39 件 延べ329 件	△16 件 延べ△112 件

ウ 児童・思春期精神医療の提供

- ・子どものこころ診療センターにおいて、多角的な視点のもと早期に治療方針を決定するため多職種チームによる初診診療を実施
- ・発達障害特性のある子どもに対し、親が適切な関わり方を学び二次障害を防止するためペアレントトレーニングを実施

区 分	R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
初診診療件数	85 件	80 件	5 件
家族支援のためのペアレントトレーニング実施件数	－件	6 件	△6 件

エ 依存症医療の提供

令和2年度からゲーム・ネット依存症患者に対し、専門チームにより当院独自の治療プログラムの開発に着手。医療機関からの紹介による緊急避難的・試行的な入院治療を開始(県内初)。入院受入れ11症例全てにおいて治療効果を確認

オ 認知症専門医療の提供

認知症疾患医療センターにおける専門医療相談等を開始(令和2年4月1日指定)

区 分		R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
専門医療 相談	電話	606 件	376 件	230 件
	面接	307 件	242 件	65 件
もの忘れ外来件数		1,056 件	841 件	215 件
(内鑑別診断)		(61 件)	(43 件)	(18 件)

カ 精神科訪問看護の実施

初回入院患者の退院後毎週訪問(1か月間)等の実施により3か月以内再入院を抑制

区 分	R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
訪問看護件数	811 件	973 件	△162 件
再入院率(※)	20.8%	18.0%	2.8 ポイント

キ 地域の保健・福祉関係機関等との連携の推進

児童相談所・要保護児童対策地域協議会等と連携し児童虐待や自殺企図児童などの緊急入院に対応

区 分	R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
新規入院患者数	24 人	21 人	3 人
うち緊急・優先入院	3 人	2 人	1 人
うち成人病棟への入院	3 人	5 人	△2 人

ク 医療従事者の養成と専門性の向上

初期研修医制度の精神科必須化に伴い研修医を受入れ

区 分	R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
初期研修医	8 人	2 人	6 人

ケ 信州大学との連携

連携大学院教育による勤務医の博士号取得に係る臨床研究を実施

区 分	R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
連携大学院生年度末 在籍数	2 人	2 人	0 人

コ 先端技術の活用

院内のインターネット環境を再整備し、オンライン面会を実施（令和2年8月から開始）

区 分	R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
オンライン面会実施件数	97 件	47 件	50 件

児童精神科病棟の需要が特に高く、59 件の面会を実施（全体の約 7 割）

サ 働き方改革

- ・急性期病棟（11 月～）、全病棟（12 月～）の二交代制勤務試行に向けた検討を開始
- ・11 月からの看護当直から夜勤体制への移行に向けた検討を開始

シ 職員の勤務環境の向上

有期雇用職員の勤務時間管理の徹底により超過勤務時間を削減

区 分	R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
年間総超過勤務時間	64 時間 26 分	76 時間 56 分	△12 時間 30 分

ス 新型コロナウイルス感染症への対応

精神疾患があり、かつ感染の疑いがある患者を受入れ

【感染者等受入数】

項目	R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
感染者受入数	2 人 延べ 32 日	0 人 延べ 0 日	2 人 32 日
疑い患者受入数	8 人 延べ 23 日	7 人 延べ 33 日	1 人 △10 日
計	10 人 延べ 55 日	7 人 延べ 33 日	3 人 22 日

【検査件数】

検査種類等	R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
P C R 検査	57 件	4 件	53 件
抗原定性検査	16 件	3 件	13 件

※PCR 検査は保健所・他院対応

【ワクチン接種件数】

項目	R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
住民	244 件	0 件	244 件
医療従事者	906 件	0 件	906 件
計	1,150 件	0 件	1,150 件

2-2-2 経営指標等

【経営指標】

こころの医療センター駒ヶ根 令和3年度上半期実績

項目	区分	R3上半期実績	年度計画	対年度計画比	前年度上半期実績	対前年度比
延患者数	入院	16,613人	18,708人	88.8%	16,544人	100.4%
	外来	19,632人	19,520人	100.6%	17,982人	109.2%
新患者数	入院	250人	261人	95.8%	255人	98.0%
	外来	637人	555人	114.8%	530人	120.2%
1人1日 当たり 診療単価	入院	27,976円	27,500円	101.7%	28,283円	98.9%
	外来	6,879円	6,920円	99.4%	7,007円	98.2%
医業収益	入院	464,760千円	514,500千円	90.3%	467,920千円	99.3%
	外来	135,052千円	135,078千円	100.0%	125,998千円	107.2%
	合計	599,812千円	649,578千円	92.3%	593,918千円	101.0%
平均在院日数		62.9日	70.0日	△7.1日	63.5日	△0.6日
病床利用率		69.2%	78.1%	△8.9ポイント	69.0%	0.2ポイント
コメント	<p>◆入院</p> <ul style="list-style-type: none"> 入院患者数 新型コロナウイルス感染患者受入れに伴う入院制限、退院促進の実施が影響し、対計画で減少 入院単価 診療単価の高い児童精神科病棟と医療観察法ユニットの高稼働により、対計画で上昇 平均在院日数 新型コロナウイルス感染患者受入れに備え、空床確保を行った影響により短縮 病床利用率 新型コロナウイルス感染患者受入れに伴う入院制限、退院促進の実施と医療非常事態宣言発令に伴う任意入院患者数が減少により、対計画で低下 <p>◆外来</p> <ul style="list-style-type: none"> 外来患者数 医療非常事態宣言発令に伴いデイケアを休止した期間があったが、感染対策との両立により、大きく患者数を減らすことなく運営できたため、ほぼ計画どおり 外来単価 診療単価の高いデイケアの休止期間があり、外来患者数のうちデイケア利用者の割合が低くなったことが影響し、対計画で減少 					

項目	R 3 上半期 実績	年度計画	対年度計画	前年度 上半期実績	対前年度実績
紹介率	47.9%	52.0%	△4.1ポイント	50.1 %	△2.2ポイント
逆紹介率	39.7%	40.0%	△0.3ポイント	43.6 %	△3.9ポイント
コメント	<p>◆紹介率 ・対年度計画、対前年とほぼ同数値</p> <p>◆逆紹介率 ・対年度計画、対前年とほぼ同数値</p>				

【損益計算書】

こころの医療センター駒ヶ根

(税抜、単位：千円)

科 目	R 3 上半期 累計 a	R 3 上半期 計画 b	対計画 増減 a-b	R 2 上半期 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	1,020,585	1,066,599	△46,014	1,007,917	12,668
医業収益	608,744	655,282	△46,538	598,923	9,821
運営費負担金収益	365,221	365,221	0	378,857	△13,636
その他経常収益	46,620	46,096	524	30,138	16,482
経常費用 (イ)	1,065,080	1,070,649	△5,569	1,032,464	32,616
医業費用	1,027,768	1,032,972	△5,204	995,673	32,095
給与費	717,849	713,740	4,109	697,364	20,485
材料費	52,156	59,827	△7,671	58,726	△6,570
減価償却費	94,444	95,357	△913	93,401	1,044
経費	160,437	158,861	1,576	144,711	15,726
研究研修費	2,883	5,188	△2,305	1,472	1,412
財務費用	16,416	16,416	0	18,965	△2,549
その他経常費用	20,896	21,261	△365	17,826	3,070
経常損益 (ア-イ)	△44,495	△4,050	△40,445	△24,546	△19,949
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	△44,495	△4,050	△40,445	△24,546	△19,949
病床確保料(エ)	48,919	41,073	7,846	0	48,919
病床確保料含む当期 純損益(ア-イ+ウ+エ)	4,424	37,023	△32,599	△24,546	28,970
コメント	<p>◆経常収益</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5月、9月の新型コロナウイルス陽性患者の受入れに伴う任意入院抑制等の実施により入院収益が減少 <p>◆経常費用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 給与費において病院機能評価受審に係る時間外勤務増により、超過勤務手当が増加 ・ 経費において施設修繕の増により、修繕費が増加 ・ 入院患者数減により、材料費が減少 ・ 新型コロナウイルス感染拡大により外部研修が中止となり、研究研修費が減少 <p>◆経常損益</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入院患者数の大幅な減少に伴う入院収益の減少が影響し、約4,500万円の損失(病床確保料を除く。) 				

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

2-3 阿南病院・阿南病院訪問看護ステーションさくら・阿南介護老人保健施設

【理 念】

- 1 私たちは、地域の中核病院として、質の高い適正な医療を提供します。
- 2 私たちは、患者さんの人権を尊重し、明るく、やさしさと思いやりのある医療を提供します。
- 3 私たちは、地域の保健・医療・福祉機関との連携のもと、地域に根ざした医療を提供します。

【基本方針】

- 1 患者さんとその生活の全てを総合的に診る全人的医療の実践に努めます。
- 2 交通事情や地域ニーズに合った巡回診療、訪問診療・看護・リハビリなどの在宅医療を行い、利便性向上と地域医療の提供に努めます。
- 3 認知症患者などに適切な医療を提供できるよう、地域の関係者と勉強会を実施するなど連携を強化し、地域全体で高齢者を支えます。
- 4 下伊那南部地域唯一の病院として、年間を通して休日・夜間患者などの救急患者の診療を行います。
- 5 下伊那南部地域唯一の病院として、疾病の予防・早期発見及び治癒に寄与できるように、体制や医療機器の充実に努めます。
- 6 地域住民との連携を図るために積極的な情報発信や交流を行います。
- 7 「人材確保」のために必要な環境整備に努めるとともに、「人材育成」のため院内研修会などの充実に努めます。

2-3-1 総合評価

【成 果】

ア 地域包括ケアシステムの推進

地域医療総合支援センターを中心に、訪問診察、看護、リハビリ、服薬指導等を積極的に実施し、在宅医療を充実

項 目	R 3 上半期 実績	R 3 上半期 年度計画	対年度計画	前年度 上半期実績	対前年度 実績
訪問診察	160 件	125 件	35 件	153 件	7 件
訪問看護	1,495 件	1,450 件	45 件	1,456 件	39 件
訪問リハビリ	529 件	415 件	114 件	380 件	149 件
訪問薬剤指導	12 件	15 件	△3 件	15 件	△3 件
合 計	2,196 件	2,005 件	191 件	2,004 件	192 件

イ へき地医療の取組

- ・常勤医師が不在となった売木村診療所への代診医師の派遣を実施（毎週1回 計23回）

・阿南町和合地区の巡回診療を継続して実施(※天龍村は4月から常勤医師着任のため終了)

地区名	R 3 上半期 実績	R 3 上半期 年度計画	対年度計画	前年度 上半期実績	対前年度 実績
阿南町和合 (日吉)	13 回 (34 人)	13 回 (35 人)	0 回 (△1 人)	13 回 (38 人)	0 回 (△4 人)
天龍村	—	—	—	25 回 (522 人)	△25 回 (△522 人)
計	13 回 (34 人)	13 回 (35 人)	0 回 (△1 人)	38 回 (560 人)	△25 回 (△526 人)

ウ 新型コロナウイルス感染症への対応

- ・保健所等と連携し感染者の受入れ及び検査を実施
- ・感染症患者等の受入時における病床の効率的な運用のため、個室病床を含めた3階病棟の改修工事の設計を開始(今年度改修完成予定)

【感染者等受入数】

項目	R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
感染者受入数	36 人 延べ 245 日	10 人 延べ 77 日	26 人 168 日

【検査件数】

検査種類等	R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
P C R (R T - P C R) 検査	250 件	0 件	250 件
P C R (L A M P) 検査	346 件	25 件	321 件
抗原定性検査	3 件	12 件	△9 件

エ 住民への新型コロナウイルスワクチン接種開始に伴う市町村への支援

下伊那南部地区の診療所医師及び行政と協力し、医療従事者の接種及び住民の集団接種のほか、9つの高齢者施設、障がい者施設での巡回接種、外出ができない患者への訪問接種を実施。関係機関と連携し早期から接種を始めたことにより下伊那南部地区の2回目接種率は早い段階で80%を達成(接種対象者数1万人以上の県内自治体の中で最速)

【ワクチン接種件数】

項目	R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
住民	4,803 件	0 件	4,803 件
医療従事者	1,049 件	0 件	1,049 件
計	5,852 件	0 件	5,852 件

オ 災害医療等の提供

11月の電子カルテシステムの更新に向けた準備に併せて、災害時の電子カルテデータのバックアップを遠隔地のクラウドシステムを利用し行えるようシステム追加を実施

カ 認知症の専門医療の提供

高齢の入院患者が多い状況のため、入院早期からせん妄のリスク因子をスクリーニングし、ハイリスク患者に対して非薬物療法（院内デイサービスなど）を中心にせん妄対策を行うための体制を作り開始。併せて、9月から「せん妄ハイリスク患者ケア加算」の算定を開始（件数37件 加算金額37,000円）

キ 介護サービスの提供（阿南介護老人保健施設）

在宅復帰率の向上及び在宅訪問を推進。また基本サービスの施設基準について、昨年度11月より算定を開始した「強化型」を維持し、さらに上位の単位数での算定を目指した申請を行うとともに、科学的介護推進システム（LIFE）を稼働し、5月利用分から「通所リハマネジメント加算」の新規取得を実施

【阿南介護老人保健施設利用実績】

項目	R 3 上半期 実績	R 3 上半期 年度計画	対年度計画	前年度 上半期実績	対前年度 実績
利用者数	7,181 人	7,020 人	161 人	6,615 人	566 人
入所単価	10,992 円	10,688 円	304 円	10,495 円	497 円

【在宅強化型】※10月より超強化型での申請へ

項目	R 3 上半期 実績	R 3 上半期 年度計画	対年度計画	前年度 上半期実績	対前年度 実績
加算件数	7,181 件	7,020 件	161 件	6,615 件	566 件
加算金額	5,433,560 円	2,386,800 円	3,046,760 円	1,187,960 円	4,245,600 円

【通所リハマネジメント加算】

項目	R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
加算件数	54 件	28 件	26 件
加算金額	345,280 円	92,400 円	252,880 円

ク 在宅看護の提供体制の充実（訪問看護）

2年目となる訪問看護ステーションの安定的な運営を行い、地域の在宅看護の提供体制を充実

項目	R 3 上半期 実績	R 3 上半期 年度計画	対年度計画	前年度 上半期実績	対前年度 実績
訪問件数	1,495 件	1,450 件	45 件	1,456 件	39 件

ケ 地域医療構想への対応

- ・ 3月から本格的に稼働開始した包括ケア病床の適切な運用方法を検討するため、多職種による拡大ベッドコントロール会議を月1回実施
- ・ 4階病棟看護師を対象に効率的なベッドコントロールを進めるため、地域包括ケア病床についての研修会を実施

【地域包括ケア病床利用実績】

項目	R3上半期実績	R3上半期年度計画	対年度計画	病床利用率	1日あたり入院単価
利用者数	1,704人	1,098人	606人	54.9%	34,028円

コ 地域包括ケアシステムの推進

病院職員の専門知識を生かし、地域住民の健康意識の向上とともに病院活動の情報発信となるように「出前講座」として昨年度より多い27講座を企画し、医師や認定看護師などの資格を有した看護師等を中心に実施（5回実施、127人参加 令和2年度は新型コロナにより実施なし）

サ 県内医療に貢献する医師確保・養成への取組

- ・ 老朽化した医師住宅について、阿南町の支援を受け令和3年度新築整備に向け住宅の設計を実施
- ・ 阿南高校、信州木曽看護専門学校への講師派遣及び実習生の受入れを実施
実習生受入：飯田女子短大 1年生 10人 4日間、2年生 6人 8日間
信州木曽看護専門学校 15人 4回
阿南高校 福祉コース生徒 2回（老健）、講師派遣30回

シ 安全で信頼できる医療の提供

- ・ 地域連携室へ専従看護師を配置し、入院当初から退院支援を行うことにより患者・家族が安心できる環境の継続
- ・ 摂食嚥下障害看護認定看護師を中心に、多職種が参加する摂食嚥下チームを立ち上げ、高齢者に多い誤嚥減少への取り組みを継続
- ・ 院内における医療安全研修会の実施（令和3年度上半期 3回開催 延受講者 258人）

ス 医療サービスの向上に向けた取組

- ・ 患者の利便性の向上を図るため、クレジットカードによる支払の導入に向けた準備を開始

セ 働き方改革への取組

- ・ 4月から週1回医師を派遣している売木村診療所の診療回数が増及び医師の負担軽減を図るため、オンライン診療導入に向けた準備に着手（課題の抽出、技術的な検討、村との調整、院内ワーキンググループの設置など）

- ・勤怠管理システムによる病院スタッフの労働時間を把握及び分析、さらにその内容について衛生委員会を通じ各セクションへの周知実施

ソ 勤務環境の向上への取組

- ・医師の業務負担軽減を図るため非常勤当直医師を採用
- ・病棟看護師の業務負担軽減を図るべく病棟の看護補助者を1名増員し、看護職員と看護補助者との業務内容及び業務範囲の見直しを実施し早朝業務・遅番業務へ一部移行

タ 経営黒字の維持

- ・地域包括ケア病床の運営開始に伴い、毎朝の情報交換・カンファレンス（看護師長・リハビリ科・医師）を実施。また、入退院調整会議を毎週1回行い、拡大ベッドコントロール会議を月1回実施

チ 収益確保への取組

- ・DPCデータを分析し診療状況や経営状況に活用することによる医療の質の向上及び標準化、並びに収益増加の見込みについて検討を行い、令和6年度にDPC制度に参加することを決定。9月にDPC準備病院となる届出を提出
- ・入院診療単価の増加を図るため、9月より急性期看護補助体制加算25対1 看護補助者5割以上の算定を開始（加算件数 3,346件 加算金額 7,469,200円（※2年度11月から算定を開始した25対1 看護補助者5割以下の数値含む））

ツ 費用の抑制

阿南町と連携し、病院敷地等の借地を集約化し賃貸費用の抑制を図るため、阿南町と検討を開始

2-3-2 経営指標等

【経営指標】

1 阿南病院 令和3年度上半期実績

項目	区分	実績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
延患者数	入院	7,684人	7,636人	100.6%	7,134人	107.7%
	外来	20,420人	19,880人	102.7%	20,507人	99.6%
新患者数	入院	443人	400人	110.8%	383人	115.7%
	外来	1,385人	300人	-	244人	-
1人1日 当たり 診療単価	入院	32,726円	32,304円	101.3%	28,912円	113.2%
	外来	9,242円	8,996円	102.7%	8,790円	105.1%

医業収益	入院	249,349 千円	246,676 千円	101.1%	205,068千円	121.6%
	外来	189,396 千円	182,324 千円	103.9%	181,323千円	104.5%
	合計	438,745 千円	429,000 千円	102.3%	386,391千円	113.5%
平均在院日数 (一般病棟)		15.0日	21.0日	△6.0日	18.1日	△3.1日
病床利用率		56.5%	56.4%	0.1ポイント	52.7%	3.8ポイント
コメント	<p>◆入院</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者数は、新型コロナウイルス感染症患者の受入れと一般の入院受け入れを並行したこと及び地域包括ケア病床の本格的な運用開始に伴い増加 診療単価は、地域包括ケア病床の運用の本格化、看護補助加算の算定増、検査数の増により対計画、対前年度ともに増加 入院収益は、診療単価及び患者数ともに増加したことにより対計画、対前年度ともに増加 <p>◆外来</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者数は、天龍村の巡回診療が終了したことにより対前年度より減少 診療単価は、コロナ関連の検査数の増及び注射薬の増により、対計画・対前年度ともに増加 外来収益は、患者数は昨年度より減少したものの診療単価が増加したため対計画、対前年度ともに増加 <p>◆公衆衛生活動</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナワクチン接種のため、対計画、対前年度ともに大幅に増加 					

項目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
紹介率	38.4%	23.0%	+15.4ポイント	28.7%	+9.7ポイント
逆紹介率	22.2%	16.0%	+6.2ポイント	18.7%	+3.5ポイント
コメント	<p>◆紹介率・逆紹介率</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携室職員で、近隣の病院、診療所への訪問を行い、連携を強化 2年度に減少した診療所からの紹介患者が戻り始めたこと、及び飯田市立病院からの感染者受入れにより紹介率は増加。診療所からの紹介の増加に伴い逆紹介率も増加 				

2 阿南病院訪問看護ステーションさくら 令和3年度上半期実績

項目	実績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
利用者数	1,495人	1,450人	103.1%	1,456人	102.7%
コメント	<p>◆利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> 当院によるステーション運営2年目となり、利用者延人数は対計画・対前年度ともに増加 				

3 阿南介護老人保健施設 令和3年度上半期実績

項目	区分	実績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
利用者数	入所者	7,181人	7,020人	102.3%	6,615人	108.6%
	通所者	332人	201人	165.2%	180人	184.4%
1人1日 当たり単価	入所	10,992円	10,688円	102.8%	10,495円	104.7%
	通所	11,132円	9,945円	111.9%	9,929円	112.1%
営業収益	入所	78,935千円	75,030千円	105.2%	69,422千円	113.7%
	通所	3,696千円	1,999千円	184.9%	1,787千円	206.8%
コメント	<p>◆入所 ・入所者数は、新型コロナウイルスに対する予防策を講じることで、前年度、感染を恐れて減少した申し込みが増加に転じたため対計画・対前年度ともに増加</p> <p>◆通所 ・通所者数は、毎月安定した利用が続いていることに加え、新規利用者の獲得や既存利用者の利用回数増によって、対計画・対前年度とも大きく増加</p>					

【損益計算書】

1 阿南病院

(税抜、単位：千円)

科目	R3上半期 累計 a	R3上半期 計画 b	対計画 増減 a-b	R2上半期 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	876,965	854,381	22,584	802,652	74,313
医業収益	475,584	452,102	23,482	403,326	72,258
運営費負担金収益	374,037	374,037	0	378,979	△4,942
その他経常収益	27,344	28,242	△898	20,347	6,998
経常費用 (イ)	819,489	864,494	△45,005	821,746	△2,257
医業費用	786,867	831,870	△45,003	790,242	△3,375
給与費	481,880	482,260	△380	474,265	7,616
材料費	68,923	81,839	△12,916	74,916	△5,993
減価償却費	98,157	107,531	△9,374	98,152	5
経費	135,748	156,693	△20,945	141,553	△5,805
研究研修費	2,158	3,549	△1,391	1,357	801
財務費用	8,306	8,306	0	9,643	△1,337
その他経常費用	24,316	24,318	△2	21,861	2,455
経常損益 (ア-イ)	57,476	△10,113	67,589	△19,094	76,570
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	57,476	△10,113	67,589	△19,094	76,570

病床確保料(エ)	226,916	139,964	86,952	0	226,916
病床確保料含む当期純損益(ア-イ+ウ+エ)	284,392	129,851	154,541	△19,094	303,486
コメント	<p>◆経常収益</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院・外来収益は、患者数が計画を上回ったこと及び新規加算取得、コロナ関連の診療報酬増により診療単価も増加したため計画・前年を上回った。 ・公衆活動収益は、コロナワクチンの接種を積極的に実施したことに加え日曜日の接種に休日加算がついたことにより計画・前年を大幅に上回った。 <p>◆経常費用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給与費については、休日の新型コロナウイルスワクチン接種対応等による超過勤務手当の増などにより前年を上回った。 ・材料費については、薬品購入で一括契約による遡及値引きや高額薬品の購入減、医療材料で个人防护具等の在庫数の確保による購入減などにより計画・前年を下回った。 ・経費については、電子カルテシステム等保守契約の見直しによる委託料の減、医療機器等修繕の減等より計画・前年を下回った。 				

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

2 阿南介護老人保健施設

(税抜、単位：千円)

科目	R3 上半期 累計 a	R3 上半期 計画 b	対計画 増減 a-b	R2 上半期 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	119,785	113,414	6,371	107,011	12,774
介護老人保健施設収益	96,836	90,079	6,757	83,422	13,414
運営費負担金収益	21,008	21,008	0	22,919	△1,911
その他経常収益	1,941	2,327	△386	671	1,270
経常費用 (イ)	109,179	112,433	△3,254	109,324	△145
介護老人保健施設費用	103,405	106,658	△3,253	102,016	1,389
給与費	69,086	70,936	△1,850	71,271	△2,185
材料費	6,796	6,850	△54	6,313	483
減価償却費	11,598	11,557	41	11,409	190
経費	15,872	17,174	△1,302	13,017	2,855
研究研修費	52	141	△89	7	46
財務費用	3,410	3,410	0	5,183	△1,773
その他経常費用	2,364	2,365	△1	2,126	239
経常損益 (ア-イ)	10,605	981	9,624	△2,313	12,918
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	10,605	981	9,624	△2,313	12,918

コメント	<p>◆経常収益</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で減少した入所者数が増加に転じたことに加え、基本サービス料の施設基準について「強化型」の単位数算定の維持により収益単価が向上したため、入所収益は計画・前年を上回った。 ・通所収益も同様に利用者数が増加したこと、また通所リハマネジメント加算で、より報酬単価の高い加算を算定したことで収益単価が向上し、計画・前年を上回った。 <p>◆経常費用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給与費については、退職給付引当金繰入額の減により計画・前年を下回った。 ・経費については、空調設備等の施設修繕のため前年度を大幅に上回った。
------	---

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

2-4 木曽病院・木曽介護老人保健施設・木曽病院介護医療院

【理 念】

私達は、患者さんの立場にたち、信頼と満足が得られて、心のふれ合いのある医療サービスを実践します。

【基本方針】

- 1 木曽で唯一の病院として、いつでも安心してかかることができる地域に信頼される病院をめざします。
- 2 人権を尊重し、十分な説明と同意（インフォームドコンセント）に基づいた医療サービスを提供します。とりわけチーム医療に取り組みます。
- 3 つねに新しい知識技術の習得に努め、地域に根ざした質の高い医療を提供します。とりわけ救急医療の充実に努めます。
- 4 町村や他の医療・福祉・保健・介護施設と連携を強化して、地域の要望に応えられるよう努めます。とりわけ在宅医療を充実します。
- 5 清潔、快適で安らぎのある療養環境の整備改善に努めます。
- 6 人間性にあふれた、働きがいのある病院運営に努めます。
- 7 健全経営の維持に努めます。

2-4-1 総合評価

【成 果】

ア 在宅医療の充実

在宅療養支援病院として、緊急時の連絡体制並びに24時間往診及び24時間訪問看護の提供が可能な体制を確保

項 目	R3 上半期 実績	R3 上半期 年度計画	対年度計画	前年度 上半期実績	対前年度 実績
訪問診療件数	297 件	350 件	△53 件	250 件	47 件
訪問看護件数	2,103 件	2,000 件	103 件	2,169 件	△66 件
訪問リハビリ件数	486 件	400 件	86 件	409 件	77 件
計	2,886 件	2,750 件	136 件	2,828 件	58 件

イ 産科医療の提供

- ・産科の療養環境改善のため、産科ユニットを整備（10月に入札を実施）
- ・伊那中央病院と連携し、土日の緊急手術に備えた麻酔科医待機態勢を構築

項 目	R3 上半期 実績	R3 上半期 年度計画	対年度計画	前年度 上半期実績	対前年度 実績
分娩件数	41 件	50 件	△9 件	37 件	4 件

ウ ヘき地医療の提供

巡回診療の実施により、無医地区の医療確保に貢献

地区名	R3 上半期 実績	R3 上半期 年度計画	対年度計画	前年度上半期 実績	対前年度 実績
台	4回(4人)	6回(12人)	△2回(△8人)	4回(4人)	-回(-人)
才児	6回(17人)	6回(12人)	-回(4人)	5回(18人)	△1回(△1人)

エ 地域がん診療病院としての診療機能を充実

令和3年4月、歯科口腔外科を開設(令和3年上半期の患者数 192名)

オ 災害医療の提供

- DMATカー購入のため、クラウドファンディングを活用
 - ・目標金額(第1目標 1,700万円、第2目標 500万円、第3目標 500万円)を上回る3,750万円(寄付者 1,050人)の寄付額となり、DMATカーに加え老健送迎車及びDMATカーに搭載する医療機器を購入の予定
- 井戸水の浄化設備を整備し災害拠点病院の機能を強化
 - ・令和3年10月から運用開始

カ 介護サービスの充実

- 木曾介護老人保健施設
 - ・在宅強化型の維持により、自宅での生活能力向上に向けた支援を実施
 - ・多職種による自宅訪問を実施し、在宅復帰に重点を置いたサービスを提供
- 介護医療院
 - ・多職種との連携を強化し、入所者のニーズに応じた生活支援を実施

キ 先端技術の活用

- ・外来診療におけるAI問診サポートの活用
- ・院内の無線通信環境を整備し、医療従事者間の情報共有を推進
- ・医療情報部を新設(電子カルテ更新業務の推進のほかクリニカルパス、院内情報システム・ネットワークの構築推進)

ク 京セラ式アメーバ経営の運用の推進

- ・時間当たり採算指標とBSCとを結合させた部署ごとの取組みを充実
- ・部門リーダーとの面談により取組みの進捗を確認

ケ 働き方改革への対応

- ・信大附属病院医師によるスポット当直を活用し医師の負担を軽減(上半期6回)

- ・当直明け等の職務専念義務免除制度の試行（令和3年6月から、延べ10人活用）
- ・医師事務作業補助者の増員（2名）及び業務範囲の拡大
- ・コンサルタントを活用した医師の超過勤務縮減等の働き方改革の推進（10月から委託）

コ 収益の確保

- ・患者の入院期間の情報管理を徹底し、DPC入院期間を意識したベッドコントロールにより診療単価を維持
- ・介護報酬の新規加算の届出（令和3年7月）

項目	R3年度上半期実績
科学的介護推進体制加算（Ⅱ）	33,000円
栄養マネジメント強化加算	162,360円
薬剤管理指導（特別診療費）	14,000円

サ 費用の抑制

- ・コンサルタントを活用した診療材料価格交渉の実施（10月実施）
- ・経費削減額の見える化・意識化（事務部）

シ 新型コロナウイルス感染症への対応

第2種感染症指定医療機関及び重点医療機関として、感染拡大に対応

【感染者等受入数】

項目	R3上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
感染者受入数	23人 延べ183日	9人 延べ124日	14人 59日
疑い患者受入数	2人 延べ11日	0人 延べ0日	2人 11日
計	25人 延べ194日	9人 延べ124日	16人 70日

【検査件数等】

検査種類等	R3上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
PCR(RT-PCR)検査	61件	143件	△82件
PCR(LAMP)検査	0件	181件	△181件
PCR(NEAR)検査※	122件	0件	122件
抗原定性検査	0件	42件	△42件
抗原定量検査	1,816件	92件	1,724件
発熱外来受入れ	979件	541人	438人

※NEAR 法とは、感染症遺伝子検査を短時間でできる検査システム(IDNOW)を使用した検査

【ワクチン接種件数】

項目	R 3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
住民	223 件	0 件	223 件
医療従事者	1,294 件	0 件	1,294 件
計	1,517 件	0 件	1,517 件

・感染者の受入れ体制

感染症病棟 4 床、4 階病棟 6 床にて対応

・感染拡大防止対策

- ① 病院職員（委託業者含む）へのワクチン接種
- ② 木曽郡内町村のワクチン接種への協力
- ③ 発熱外来の継続
- ④ 自費でのウイルス検査の実施
- ⑤ 正面玄関における体温計測及び体調確認の実施
- ⑥ 入院患者の面会禁止を徹底
- ⑦ 入院患者への術前抗原定量検査を実施
- ⑧ 面会禁止となっている入院患者にオンラインによる面会及び窓越し面会を実施
- ⑨ 補助金を活用し検査機器を導入することで休日夜間のウイルス検査の時間を短縮

2-4-2 経営指標等

【経営指標】

1 木曽病院 令和3年度上半期実績 ※延患者数には介護医療院を含む

項目	区分	実績	年度目標	対目標比	前年度	対前年度比
延患者数	入院	23,620人	20,337人	116.1%	18,648人	126.7%
	外来	57,808人	59,045人	97.9%	53,795人	107.5%
新患者数	入院	1,248人	1,152人	108.3%	1,047人	119.2%
	外来	3,684人	3,474人	106.0%	3,016人	122.1%
1人1日 当たり 診療単価	入院	42,201円	36,398円	115.9%	37,367円	112.9%
	外来	12,642円	12,480円	101.3%	12,070円	104.7%
医業収益	入院	861,163千円	741,262千円	116.2%	689,844千円	124.8%
	外来	706,059千円	738,326千円	95.6%	623,580千円	113.2%
	合計	1,567,222千円	1,479,588千円	105.9%	1,313,424千円	119.3%

平均在院 日数		12.8日	14.1日	△1.3日	12.3日	0.5日
病床利用 率		70.5%	58.2%	12.3 ポイント	55.6%	14.9ポイント
コメント	<p>◆入院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延患者数及び新患者数 高齢化に伴う心不全患者の増加及び坂下病院の診療所化の影響による南木曾町の患者の増加等により対計画値で増加 ・入院単価 DPC入院期間Ⅱ、Ⅲを意識したベッドコントロールに努めた結果、上昇 ・平均在院日数 DPC入院期間Ⅱを意識したベッドコントロールを行い計画値より短縮 <p>◆外来</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来患者数 新型コロナウイルス感染症流行による受診抑制の影響が続き、対計画値で減少 ・外来単価 既存加算の算定件数の増加に努めた結果、対計画値で増加 					

項目	実績	年度目標	対目標増減	前年度	対前年度増減
紹介率	17.4%	22.0%	△4.6ポイント	23.9%	△6.5ポイント
逆紹介率	29.6%	26.0%	+3.6ポイント	26.1%	+3.5ポイント
コメント	<p>◆紹介率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介患者数自体はほとんど変わらないが、初診救急患者の減少と分母である初診患者数全体の増加により、対計画値で減少 <p>◆逆紹介率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信州大学医学部附属病院や伊那中央病院への逆紹介患者数の増加により、対計画値で増加 				

2 木曾介護老人保健施設 令和3年度上半期実績

項目	区分	実績	年度目標	対目標比	前年度	対前年度比
利用者数	入所者	7,555人	8,265人	91.4%	7,464人	101.2%
	通所者	0人	336人	-	329人	-
1人1日 当たり単価	入所	11,802円	11,547円	102.2%	10,495円	112.5%
	通所	-	9,839円	-	9,395円	-

営業収益	入 所	89,165 千円	95,440 千円	93.4%	82,553千円	108.0%
	通 所	-	3,306 千円	-	3,091 千円	-
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・入所者数 入所者の入院や特養への入所並びに入所予定者の予定変更等により、対計画値は減少 ・通所者数 新型コロナウイルス感染症対策として受入れを停止している。 					

3 木曽病院介護医療院 令和3年度上半期実績

項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度	対前年度比
利用者数	3,214人	2,976人	108.0%	2,640人	121.7%
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数 郡内外の地域包括支援センター等への広報に努めた結果、対計画値で増加 				

【損益計算書】

1 木曽病院

(税抜、単位：千円)

科 目	R 3 上半期 累計 a	R 3 上半期 計画 b	対計画 増減 a-b	R 2 上半期 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	2,121,748	2,017,537	104,211	1,821,728	300,020
医業収益	1,616,701	1,527,779	88,922	1,345,433	271,268
運営費負担金収益	426,926	426,926	0	438,054	△11,128
その他経常収益	78,121	62,832	15,289	38,242	39,880
経常費用 (イ)	2,048,671	2,031,332	17,339	1,958,830	89,841
医業費用	1,970,810	1,955,193	15,617	1,869,384	101,426
給与費	1,186,801	1,154,058	32,743	1,111,589	75,212
材料費	360,507	353,142	7,365	338,515	21,992
減価償却費	138,598	136,595	2,003	121,559	17,039
経費	281,471	306,523	△25,052	295,466	△13,995
研究研修費	3,433	4,875	△1,442	2,256	1,177
財務費用	9,062	9,062	0	24,390	△15,328
その他経常費用	68,799	67,077	1,722	65,056	3,743
経常損益 (ア-イ)	73,078	△13,795	86,873	△137,102	210,180
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	73,078	△13,795	86,873	△137,102	210,180
病床確保料(エ)	142,994	178,671	△35,677	0	142,994

病床確保料含む当期 純損益(ア-イ+ウ+エ)	216,072	164,876	51,196	△137,102	353,174
コメント	<p>◆医業収益 ・入院患者の増加やDPC入院期間を意識したベッドコントロール等による診療単価の上昇により計画を上回った。</p> <p>◆医業費用 ・経費は計画値を下回ったが、常勤医2名の増員による給与費と非常勤医師等の報酬の増加、患者数の増加に伴う診療材料費の増加により全体では計画を上回った。</p>				

2 木曾介護老人保健施設

(税抜、単位：千円)

科 目	R3 上半期 累計 a	R3 上半期 計画 b	対計画 増減 a-b	R2 上半期 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	127,628	135,752	△8,124	122,612	5,016
介護老人保健施設収益	103,729	112,004	△8,275	98,805	4,924
運営費負担金収益	20,222	20,222	0	23,034	△2,812
その他経常収益	3,677	3,526	151	774	2,903
経常費用 (イ)	129,903	135,055	△5,152	131,774	△1,871
介護老人保健施設費用	122,626	127,777	△5,151	122,082	544
給与費	88,726	92,313	△3,587	87,444	1,282
材料費	8,076	8,333	△257	8,310	△234
減価償却費	7,144	7,273	△129	6,969	175
経費	18,586	19,754	△1,168	19,343	△757
研究研修費	94	104	△10	16	78
財務費用	4,535	4,535	0	6,651	△2,116
その他経常費用	2,742	2,743	△1	3,042	△300
経常損益 (ア-イ)	△2,275	697	△2,972	△9,162	6,887
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	△2,275	697	△2,972	△9,162	6,887
コメント	<p>◆経常収益 ・入所者数が見込みを下回ったこと、新型コロナウイルス感染症対策として通所の受入れを停止していること等により計画を下回った。</p> <p>◆経常費用 ・職員の人員配置の見直し、コスト削減の徹底等により計画を下回った。</p>				

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

2-5 こども病院

【理 念】

わたし達は、未来を担うこども達とその家族のために、質が高く、安全な医療を行います。

【基本方針】

- 1 こどもと家族の権利の尊重
- 2 療育環境の充実
- 3 チーム医療の実践
- 4 医療従事者の育成
- 5 健全な病院経営

2-5-1 総合評価

【成 果】

ア 高度・専門医療の提供

○北棟外来診察室・感染隔離室の増設

- ・増加傾向の外来患者に対応して診療機能の強化を図るための外来診察室の増設、及び外来エリアで適切な感染対策を実践するための感染隔離室の増設を行う北棟増改築工事を9月下旬から開始。令和4年4月下旬竣工及び5月連休明けオープンの予定

○小児アレルギーセンターの開設

- ・令和3年4月に開設。長野県から「アレルギー疾患医療拠点病院」に指定され、重症・難治性アレルギー疾患患者の診療、地域住民に対する情報提供、アレルギー医療に関わる医療従事者の人材育成、疫学や臨床研究への協力等を実施

人材育成	・アレルギーに関する正しい情報について養護教諭、保健師向けに研修を3回実施 ・小児アレルギー疾患の基本的研修を若手医師対象に実施 ・食物経口負荷試験に関する研修を他院から3名受入れ
情報提供	・5月に医療従事者や学校関係者などを対象とした小児アレルギー相談用メールアドレスを開設（相談件数6件）
疫学・臨床研究推進	・9月に長野県小児アレルギー診療実態調査（アンケート調査）を実施

○成人先天性心疾患センターの開設

- ・令和3年4月に開設。日本成人先天性心疾患学会認定の「連携修練施設」として、同学会より「総合修練施設」に認定されている信州大学と連携し、成人先天性心疾患の診断・治療を行うとともに、人材の育成と臨床研究を支援

診断・治療実績	・カテーテル検査7件、カテーテル治療4件、心臓大血管手術4件
人材育成、臨床研究	・信州大学成人先天性心疾患センター他、県内基幹病院との合同カンファレンスを開始し、長野県成人先天性心疾患カンファレンスを3回実施

○移行期医療支援センターの開設

- ・令和3年4月に開設。小児慢性疾患に全般に対する小児期から成人期への移行医療を円滑に進めるためセンター化。5月から開始した移行期専門外来は9人の利用があった。

連絡会議・研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・信州大学、地域一般病院や開業医との連携を強化、県内の移行期医療体制の整備を進め、信州大学との連絡会議を6回実施 ・9月11日に開催された長野県小児保健研究会のシンポジウム「長野県の移行期医療を考える～様々な視点から～」で当院での支援について症例を発表
就学・就労支援	<ul style="list-style-type: none"> ・小児慢性疾患患者の準備性・社会性を整えるため、小学校入学前、中学卒業前に知能、発達検査を行い、患者の適性に配慮した就学・就労を目指した支援を患者・家族に実施 (就労支援：個別相談延べ4人・集団講話2回、学習サポート：延べ7人)

○成育女性科外来の開設

- ・令和3年4月に開設。産科外来で適宜対応していた婦人科診療について院内に広報・周知を行い、月経異常・無月経・月経痛などの症状で悩んでいる患者及びその家族をケアし、治療や治療のマネジメントを実施。外来患者数48人の利用があり、院内認知が進み新規患者の紹介が増加

○ニューロケア（神経治療）センターの取組継続

- ・令和2年10月に開設。複雑で高度化した神経機能の疾患に多職種連携で対応し、神経系疾患入院患者数が増加。令和3年10月にニューロケアセンターシンポジウムを開催

代表的な治療法	R3上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
バクロフェン持続髄注療法	手術2件 トライアル0件	手術1件 トライアル1件	手術1件 トライアル△1件
迷走神経刺激療法	新規0件	新規2件	新規△2人
ロボットスーツ HAL 療法	51件	43件	8件
ヌシネルセン髄注療法	7件	8件	△1件

○最近の小児患者のニーズに対応した診療体制の継続

- ・あたまの形外来（令和元年10月から診療開始）
県内外の関連施設に対する認知度が上がり、患者数が増加

項目	R3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
患者数	202 人	53 人	149 人
矯正用ヘルメット作成数	28 件	11 件	17 件

イ 地域の医療機関と連携した高度医療機器の共同利用

○放射線治療の拡充

- ・地域の医療機関と連携し成人を対象とした放射線治療の拡充に取り組んだが、新型コロナウイルス感染症流行の影響を受け、件数は減少

項目	R3 上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
放射線治療人数	39 人	45 人	△6 人
放射線治療算定件数	716 件	1,333 件	△617 件
リニアック稼働額	10,363 千円	16,634 千円	△6,271 千円

※人数は延べ紹介数。件数は延べ照射回数と治療計画数の合算。稼働額は成人・小児の合算

○R I 検査機器による成人を対象にした認知症検査の実施

- ・令和3年9月から新たに成人対象の認知症検査を開始。近隣医療機関（北アルプス医療センターあづみ病院、一之瀬脳神経外科等）からの紹介を受けて9月に2件実施

ウ 訪問診療センターの取組

医療ケアを自宅で継続する患者への訪問診療の充実を図ったが、原疾患悪化による訪問対象の患者数の減により計画及び前年度実績を下回った。

（対象患者数：訪問診療5人から2人へ減、訪問リハビリ4人から2人へ減）

項目	R3 上半期実績	R3 上半期年度計画	対年度計画	前年度上半期実績	対前年度実績
訪問診療・リハビリ件数	24 件	50 件	△26 件	26 件	△2 件

エ 医療従事者の養成と専門性の向上

○連携大学院教育による研究活動の推進

- ・信州大学との協定に基づく連携大学院教育による職員の研究活動を推進し、専門性の高い医療従事者（医師7名、検査技師2名）を養成。学生数は新規進学者3人を加え合計9人に増加

項目	実績	前年度実績	累計
入学者数	3 人	2 人	9 人
セミナー開催	2 回	7 回	対前年度比28.6%

○県内医療に貢献する医師の確保・養成

県内医療に貢献する医師の確保	7月16日に初期研修医を対象としたWEB病院見学会を開催 (参加者7人のうち3人から専攻医希望あり)
----------------	---

職員の養成と専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・院内急変対応医師の認定制度を発足させ、PALS（小児二次救命処置法）講習会参加に補助金を設定し受講を積極的に推奨。9人の医師を認定 ・認定看護師（感染管理）7月より1人受講開始 ・看護師特定行為研修（慢性期パッケージ）10月より1人受講開始
--------------	---

オ 医療の質の向上、医療等サービスの一層の向上

○患者サポートセンターの開設

- ・令和3年9月から業務開始。上半期は鼠径ヘルニア・停留精巣クリニカルパス患者を対象に患者入院前から退院後までを多職種連携で支援。対象患者は今後増加予定
- ・入院前日電話訪問（全身麻酔の検査・手術を対象）と当日予定入院案内を外来から引き継ぎ開始
- ・入院前加算実績数は在宅人工呼吸器の乗り換え5件

○病院機能評価受審

- ・病院の更なる改善活動と医療の質の向上を推進するため、令和3年9月2日、3日に日本医療機能評価機構による「病院機能評価」を受審。11月1日に中間結果報告を受理

○先端技術の活用

- ・面会制限で患児と面会できない家族のためのオンライン面会システム導入に向け業者選定し、セキュリティ対策に配慮したシステムを構築し試験運用を実施。10月以降に職員説明を行い本格運用予定

カ 働き方改革への対応

- 医師の勤務環境改善に向け、各診療科部長と面談を実施し、勤務状況、時間管理及び健康管理面等についての課題を共有した上で、新たな勤務体制として変形労働時間制の導入など、負担軽減のための検討を実施

キ 経営改善、経費削減の取組

○薬剤部にて各種診療報酬を積極的に算定

・薬剤管理指導料

項目	R3上半期実績	R2上半期実績	対前年度実績
実施件数	1,810件	1,378件	432件
稼働額	6,106,900円	4,652,900円	1,454,000円

・病棟薬剤業務実施加算

項目	R3上半期実績	R2年度上半期実績	対前年度実績
実施件数	8,062件	7,552件	510件
稼働額	8,677,000円	8,085,200円	591,800円

○小児入院医療管理料1の積極的な算定

令和2年11月から、PICU12床のうちの4床をHCUとして運用し、小児入院医療管理料1を算定したことにより、収益増を実現

項目	R3上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
HCU小児入院医療管理料1	17,671,000円	0円	17,671,000円

ク 新型コロナウイルス感染症への対応

○小児の感染疑いがある患者を受入れ ※PICU入室患者

項目	R3上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
疑い患者受入数	23人 延べ23日	4人 延べ4日	19人 19日

※入院日数は陰性が判明するまでの日数

○検査件数

検査種類	R3上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
PCR検査	228件	6件	222件
MultiplexPCR検査	134件	0件	134件
計	362件	6件	356件

※MultiplexPCR検査は複数のウイルスを同時に検出する検査

○ワクチン接種件数

項目	R3上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
住民	54件	0件	54件
医療従事者	1,056件	0件	1,056件
計	1,110件	0件	1,110件

2-5-2 経営指標等

【経営指標】

こども病院 令和3年度上半期実績

項目	区分	R3上半期 実績	年度計画	対年度 計画比	前年度上半期 実績	対前年度比
延患者数	入院	26,188人	26,885人	97.4%	24,277人	107.9%
	外来	33,449人	33,958人	98.5%	30,676人	109.0%
新患者数	入院	1,951人	2,059人	94.8%	1,806人	108.0%
	外来	1,899人	2,079人	91.3%	1,770人	107.3%
1人1日 当たり 診療単価	入院	103,040円	107,719円	95.7%	107,657円	95.7%
	外来	14,116円	13,338円	105.8%	13,516円	104.4%
医業収益	入院	2,674,242千円	2,832,476千円	94.4%	2,589,072千円	103.3%
	外来	448,311千円	455,406千円	98.4%	400,207千円	112.0%
	合計	3,122,553千円	3,287,882千円	95.0%	2,989,279千円	104.5%
平均在院日数		13.2日	12.1日	1.1日	13.2日	±0日
病床利用率		73.0%	71.9%	1.1ポイント	67.8%	5.2ポイント
コメント	<p>◆入院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者数 県内一般小児患者数は回復傾向となり対前年を上回っているが、緊急事態宣言に伴う県外患者数の減少継続により対計画は未達 ・入院単価 県外患者及び手術数の減、先天性心疾患の新生児等高稼働となる患者数の減 ・平均在院日数 新入院患者数及び新退院患者数の減により対計画で延長 ・病床利用率 県内一般小児患者数の増、平均在院日数の延長 <p>◆外来</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来患者数 県内一般小児患者数は増加傾向となり対前年を上回っているが、緊急事態宣言に伴う県外患者数の減少継続により対計画は未達 ・外来単価 抗がん剤の増や頭の形外来の受診増、外来使用により出来高算定へ運用変更した注射料等により上昇 					

項目	R3上半期 実績	R3年度計画	対年度計画	前年度上半期 実績	対前年度増 減
紹介率	68.8%	77.0%	△8.2ポイント	69.8%	△1.0ポイント
逆紹介率	77.4%	73.9%	+3.5ポイント	74.2%	+3.2ポイント
コメント	<p>◆紹介率、逆紹介率</p> <p>・地域医療支援病院の要件（紹介率65%以上かつ逆紹介率40%以上）を満たしている。</p>				

【損益計算書】

こども病院

(税抜、単位：千円)

科目	R3上半期 累計 a	R3上半期 計画 b	対計画 増減 a-b	R2上半期 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	4,178,580	4,325,835	△147,255	4,021,596	156,984
医業収益	3,162,141	3,315,353	△153,212	3,016,607	145,534
運営費負担金収益	845,623	845,623	0	884,115	△38,492
その他経常収益	170,816	164,859	5,957	120,874	49,942
経常費用 (イ)	4,201,654	4,313,552	△111,898	4,151,331	50,324
医業費用	4,029,038	4,138,727	△109,689	3,970,439	58,599
給与費	2,378,314	2,362,162	16,152	2,345,852	32,462
材料費	710,788	752,168	△41,380	698,670	12,119
減価償却費	387,672	389,298	△1,626	355,554	32,118
経費	547,728	618,287	△70,559	565,834	△18,106
研究研修費	4,536	16,813	△12,277	4,529	7
財務費用	40,213	40,213	0	65,768	△25,555
その他経常費用	132,403	134,612	△2,209	115,124	17,280
経常損益 (ア-イ)	△23,074	12,282	△35,356	△129,734	106,660
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	△23,074	12,282	△35,356	△129,734	106,660
病床確保料(エ)	109,865	107,306	2,559	0	109,865
病床確保料含む当期 純損益(ア-イ+ウ+エ)	86,791	119,588	△32,797	△129,734	216,525
コメント	<p>◆医業収益</p> <p>・県内一般小児患者数は増加傾向となったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の影響を受けた県外患者数減少が回復せず、手術数及び高稼働額の患者数減少により入院単価が下がり、計画を△153,212千円下回った。</p>				

	<p>◆医業費用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給与費は前年度に引き続き超過勤務手当の縮減に努めほぼ計画どおりであった。材料費は患者数減及び高額材料を使用する手術数の減により計画を△41,380千円下回った。経費は、新型コロナ補助金を活用した医療機器購入による賃借及び保守対象機器の減少、高額修繕の減少等により計画を△70,559千円下回った。 <p>この結果、医業費用は計画を△109,689千円下回った。</p> <p>◆経常損益</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収益確保や費用削減の経営改善策を推進したものの、緊急事態宣言に伴う県外患者数減少の影響が大きく医業収益が伸びず、計画を35,356千円下回る△23,074千円の赤字となった。
--	--

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

2 - 6 信州木曾看護専門学校

【理 念】

地域医療、高度・専門医療、県民の視点に立った医療を提供する公的使命をもつ長野県立病院機構立の学校として、看護の社会的役割を担うことのできる専門職者の育成を目指します。恵まれた自然と歴史ある環境のもとで、人間の生命や生活の質を多角的に理解し尊重できる豊かな人間性を育み、科学的思考に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養成します。さらに、生涯にわたって学び続ける態度を身につけ、地域における保健・医療・福祉の発展充実に貢献する人材を育成していきます。

【基本方針】

- 1 看護の対象である人間を総合的に理解する豊かな人間性と幅広い視野を養う。
- 2 科学的思考に基づき、対象に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。
- 3 保健・医療・福祉の領域において他職種等と協働できる基礎的能力を養う。
- 4 看護職者として主体的に学び続ける基礎的能力を養う。

2 - 6 - 1 総合評価

【成 果】

ア 特色あるカリキュラムの提供と看護の基礎的実践力の育成

・地域性を活かした授業や課外活動により、地元地域への愛着を育む

項 目	実 績	年 間 計 画	対計画 増減
実施 件数	8件（予定含む）	8件	0件
内容	① 山歩き（11月予定）（環境論 1年） ② 森林セラピー（環境論 1年） ③ ほおば巻きづくり（食育学習） ④ そば打ち（食育学習） ⑤ 盲・ろう学校講義（人間関係論） ⑥ 第7回学校祭 ⑦ アイスキャンドル制作（2月予定）（町のイベント参加） ⑧ 看護の日の活動 ※⑤は新型コロナウイルス感染症蔓延により講義に変更	① 山歩き（環境論 1年） ② 森林セラピー（環境論 1年） ③ ほおば巻きづくり（食育学習） ④ そば打ち（食育学習） ⑤ 盲・ろう学校訪問（人間関係論） ⑥ 第7回学校祭 ⑦ アイスキャンドル制作 （町のイベント参加） ⑧ 看護の日の活動	

- ・基礎的な看護技術の習得と実践力の向上を図る工夫

ベッドメイキングの技術教授を工夫（2年生から1年生へ伝授）

令和3年度技術テスト合格率	令和2年度技術テスト合格率	対前年度増減
22%	71%	△49%

- ・木曽病院をはじめとする臨地実習施設と連携を取り実習体制の整備
各実習病院と連携しながら領域実習（成人看護学・精神看護学・老年看護学・母性看護学・小児看護学在宅看護論）を6クール終了した。

イ 教員等の安定的な確保及び教育力の向上

- ・教務主任、専任教員の育成

項目	上半期実績	年間計画	対計画	前年度実績	対前年度実績
教務主任養成講習会	1人	1人	計画どおり	0人	1人
放送大学 在学	3人	3人	計画どおり	2人	1人
その他大学進学	1人	1人	計画どおり	1人	0人

ウ 学生確保に向けた取り組み

- ・高校訪問、出前授業、ホームページ、オープンキャンパスを通じた認知度の向上

項目	上半期実績	年間計画	対計画	前年度実績	対前年度実績
高校訪問数	65校	62校	3校	5校	60校
ガイダンス・模擬授業	7回	13回	△6回	13回	△6回
オープンキャンパス参加者	112人 (保護者含む)	200人	△88人	170人 (保護者含む)	△58人
ホームページ ブログ更新	19回	36回	△17回	36回	△17回

エ 学生の学習環境及び生活環境の整備・充実

- ・入学前学習から入学後の学習習慣につながるサポート
入学前に課題を提示し学習への動機付け、入学後に知識確認テストの実施
- ・国家試験（以下国試）対策の推進及び受験のサポート

全国模擬試験・過去問題の実施など	上半期実績	年間計画	対計画	前年度実績	対前年度実績
1年生	0回	2回	△2回	3回	△3回
2年生	2回	4回	△2回	4回	△2回
3年生	3回	25回	△22回	25回	△22回

・模擬試験以外のサポート

学年	内容	上半期実績	年間計画	対計画	前年度実績	対前年度実績
1年生	国試ガイダンス	0回	1回	△1回	1回	△1回
2年生	国試ガイダンス 解剖生理の復習	1回 0回	1回 1回	0回 △1回	1回 1回	1回 1回
3年生	実習中15分ドリル 業者の学習講座 特別講座 土曜開校	実習中はほぼ毎日 夏休み 冬休み 0回 0日	実習中はほぼ毎日 夏休み 冬休み 3回 (12~2月予定) 9日 (12~1月予定)	ほぼ計画どおり 計画どおり 計画どおり △3回 △9日	実習中はほぼ毎日 夏休み 冬休み 2回 9日	前年と同じ 前年と同じ 前年と同じ △2回 △9日

オ 卒業生と在校生の交流の場づくりとフォローアップ

・ホームカミングデイの実施（昨年は、新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い中止）

項目	上半期実績	年間計画	対計画	前年度実績	対前年度実績
学校評議会の開催	1回	1回	計画どおり	0回	1回

期日 6月26日（土）

参加人数（卒業生） 8人（新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、木曾郡内在住者に限定）

カ 地元関係団体などとの連携・協力体制の構築

・地元行事への参加を通じて交流を深めて学校の認知度をあげる

項目	上半期実績	年間計画	対計画
実施件数	0件	8件	△8件
内容	4月 学生宿舎地区の春祭り（中止） 5月 木曾町学生歓迎会（中止） 6月 木曾郡ふれあいスポーツ交流会（中止） 7月 木曾病院防災訓練（中止） 9月 林業大学校との連携事業（中止） 10月 学校所在地の文化祭参加（中止） 11月 木曾病院祭（中止） 2月 雪灯りの散歩道（予定） ＊新型コロナウイルス感染症拡大のため行事が中止となり参加できず。	4月 学生宿舎地区の春祭り 5月 木曾町学生歓迎会 6月 木曾郡ふれあいスポーツ交流会 7月 木曾病院防災訓練 9月 林業大学校との連携事業 10月 学校所在地の文化祭参加 11月 木曾病院祭 2月 雪灯りの散歩道	

キ 組織的、継続的な学校運営及び教育活動の改善

- ・学校評議会を通して意見収集
- ・自己点検・自己評価を行いホームページで公表

項目	上半期実績	年間計画	対計画	前年度実績	対前年度実績
学校評議会の開催	1回 (書面会議)	1回	計画どおり	1回	前年と同じ
自己点検・自己評価の公表	1回	1回	計画どおり	1回	前年と同じ

2-6-2 経営指標等

【損益計算書】

信州木曾看護専門学校

(税抜、単位：千円)

科目	R3上半期 累計 a	R3上半期 計画 b	対計画 増減 a-b	R2上半期 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	78,683	79,724	△1,041	78,829	△146
看護師養成所収益	9,988	10,230	△242	9,988	1
運営費負担金収益	61,298	61,298	0	61,302	△4
その他経常収益	7,397	8,196	△799	7,540	△143
経常費用 (イ)	72,348	85,419	△13,071	72,257	91
看護師養成所費用	71,497	84,568	△13,071	71,456	41
給与費	57,804	59,309	△1,505	56,666	1,138
材料費	0	0	0	0	0
減価償却費	4,254	8,652	△4,398	4,973	△719
経費	8,971	15,638	△6,667	9,209	△238
研究研修費	469	968	△499	608	△139
財務費用	3	3	0	1	3
その他経常費用	848	848	0	800	48
経常損益 (ア-イ)	6,334	△5,695	12,029	6,572	△238
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	6,334	△5,695	12,029	6,572	△238
コメント	<p>◆経常収益</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師養成所収益は、授業料減免等により減少 <p>◆経常費用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経費は、コロナウイルス感染症により実習先が変更になったことによりマイクロバス運転委託料が不要となったこと等により減少 				

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

2-7 本部研修センター・本部事務局

2-7-1 総合評価

【成果】

ア 県内医療に貢献する医師の確保・養成に係る取組

- ・医学生や初期臨床研修医等を対象としたシミュレーション教育の充実

初期研修医のシミュレーション教育において、今年度から新たに「プレ ICLS（日本救急医学会の蘇生トレーニングコース受講に向けた練習）」を追加し、プログラムを充実

区分	対象		R3上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
シミュレーション教育	医学生	回数	8回	2回	6回
		参加者数	16人	4人	12人
	初期臨床研修医	回数	14回	13回	1回
		参加者数	50人	50人	0人
シミュレーション体験	医学生	回数	5回	2回	3回
		参加者数	5人	2人	3人

- ・医師確保推進のための医学生対象長野県立5病院 Joint セミナーの開催

県立5病院の指導医による運営会議で検討を行い、3月に開催の予定。さらに若手医師によるワーキンググループを設置し、プログラム等の詳細について検討

イ 機構職員の養成に係る取組

- ・シミュレーション教育指導者委員会による指導者連携と教育の充実

委員会を2回開催。委員は自己研鑽を兼ねて、シミュレーション教育指導スキルアップシリーズにもファシリテータとして参加

委員会の検討内容
<ul style="list-style-type: none"> ・シナリオ情報共有事業（各施設のシミュレーション教育シナリオを登録し、機構全体で共有することとして、昨年度からスタート）で登録されたシナリオ（3本）の意見交換等 ・令和4年度の「シミュレーション教育研究会」の開催に向けた検討

- ・全職員を対象とした研修の充実

職員の知識・技術・資質の向上のため、課程別研修、選択研修及び職種ごとの専門研修を実施。なお、新型コロナウイルス感染防止のため、ほとんどの研修をオンラインで実施

区分	R3上半期実績	参加者数
研修（課程別・選択・専門）	12件	500人
うちオンライン実施	11件	428人

- 各病院へ精神看護経験者を配置するための病院間交流派遣の検討
各病院看護部長及びこころの医療センター駒ヶ根と検討及び調整を進め、研修実施要綱及び研修プログラムを策定及び4月28日付けで周知

- 特定行為研修修了者の活用及び研修内容の検討
看護部長打ち合わせ会で修了後の活用について検討、修了者の支援体制を構築
来年度の研修内容について、コアメンバーで検討を開始

期別	研修期間	特定行為研修内容	受講者
第1期	令和2年10月～ 令和3年9月	【在宅・慢性期パッケージ】 *内容は下記のとおり	信州2名 阿南1名 木曾2名
第2期	令和3年10月～ 令和4年9月	【在宅・慢性期パッケージ】 *内容は下記のとおり 【血糖コントロールに係る薬剤投与 関連】	在宅 木曾1名 こども1名 血糖 信州3名 木曾1名

*内容：呼吸器（長期呼吸療法に係るもの関連）、ろう孔管理関連、創傷管理関連、
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連の4区分

- 看護記録の改善に向けた取組
8月に各病院看護記録指導者を対象に看護記録研修を実施、研修後、今後の取り組みや指導者としての役割を確認。今後、2～3月にオンラインで看護記録委員長会議を開催予定

ウ 県内医療技術者の技術水準の向上への貢献に係る取組

- ホームページや広報を活用したスキルラボ等の利用促進
信州医療センターの院外広報誌に、シミュレータ貸出し手順など「研修センターの紹介」を掲載（須坂市、高山村、小布施町全戸および各関係医療機関に配布）
【スキルラボ及びシミュレータ使用実績】

区 分		R3上半期実績	前年度上半期実績	対前年度実績
スキルラボ	使用回数	259回	189回	70回
	利用者数	1,482人	1,182人	300人
シミュレータ	使用回数	227回	220回	7回
	利用者数	1,293人	1,067人	226人

- Web会議システムを活用したシミュレーション研修の実施

研修名	開催時期	参加者数
シナリオブラッシュアップ講座（オンライン研修）	3月予定	未定
スキルアップシリーズ①②③（オンライン研修）	9～12月	60人予定 （機構内外）

エ 医療の質の向上に係る取組

・医療安全相互点検の実施

新型コロナウイルス感染対策のため、自施設で点検のうえ医療安全管理者会議で評価を実施（上半期実施機関：阿南病院）

・本部画像診断センターを開設

こども病院以外は画像診断を行う放射線科医が不在であり、県立病院全体の画像診断体制を強化するため、4月1日に本部画像診断センターをこども病院内に開設
木曽病院からの依頼に基づき画像診断を実施

区 分	R 3 上半期実績
CT	2,147 件
MRI	476 件
RI	13 件
一般撮影	684 件
計	3,320 件

参考：令和元年度の委託実績 5,891 件

オ 前年度導入した人事評価制度の実績検証と課題整理及び見直し

・全職員及び評価者を対象にアンケートを行い、その内容に基づき見直しを実施

カ 働き方改革の推進に係る取組

・病院における医師労働時間短縮計画策定への支援

6月の看護部長・事務部長合同会議において、労働基準監督署の研修講義に基づく「労務管理上の留意点」について説明

キ 医療の質と経営的な視点を両立させる適正な看護師数の検討

・看護職場の勤務形態の実態が見える化するため、職種、育児部分休業及び育児短時間勤務制度を活用している職員を常勤換算数で確認できる適正人数試算表を再構築

ク 職員の心身の健康保持及び増進

・4月から相談員を1人配置し、相談体制を強化

・保健師及び相談員による巡回健康相談を実施

・ストレスチェック及びメンタルヘルス巡回相談を実施しメンタル疾患を早期に把握

項 目	R 3 上半期実績	参加者数等
新規採用職員研修（メンタルヘルス）〔保健師〕	1 回	72 人
メンタルヘルス巡回相談（新規採用職員等対象）〔保健師〕	各所属 2 回	146 人

健康（メンタルを含む）巡回相談（全職員対象）〔保健師〕	各所属 2 回	49 人
過重労働による健康障害防止のための面接指導〔産業医〕	各所属	6 人
ストレスチェック（全職員対象）	1 回	1,667 人

ケ 経費削減の取組

・医薬品費の削減

コンサルタント、各病院の薬剤部長等と連携した医薬品の価格交渉を行い、4月1日に遡って交渉後単価を適用し、医薬品費を削減

【遡及額】 (税込)

信州	駒ヶ根	阿南	木曾	こども	合計
6,441千円	757千円	1,139千円	7,045千円	3,429千円	18,811千円

・医療材料費の削減

信州医療センターにおいて、コンサルタントを交えた価格交渉を実施し、昨年度実績ベースで16,500千円を削減

コ 内部監査の実施

- ・病院等を対象とし、「有形固定資産（備品）の管理状況」について、担当者等からの聞き取り及び現場確認による監査を実施

サ 新型コロナウイルス感染症に係る対応

・採用試験その他採用活動に係るオンライン対応の実施

新型コロナウイルスの感染拡大状況やワクチン接種状況を見極めながら、Webによる面接を併行して実施したほか、オンラインによる学生説明会やインターンシップを実施

【採用試験】

実施区分	実施時期	受検人数	Web 人数	Web 実施率
薬剤師	4 月	9	9	100.0%
看護職（第1回）	4、5 月	52	7	13.5%
事務職（一次面接）	5 月	22	22	100.0%
事務職（二次面接）	5 月	10	0	0.0%
看護職（木曾看護）	6 月	9	0	0.0%
看護職（第2回）	6 月	17	4	23.5%
医療技術職	6 月	24	6	25.0%
看護職（第3回）	8 月	17	2	11.8%

【学生向け説明会】 薬学生インターンシップフェア（8月）

【インターンシップ】 こども病院（8月、9月）

・時差勤務及び在宅勤務の推進

通勤時の「密」を回避するため、通年での時差出勤を推進（7:15～、7:30～、7:45～、8:00～）

休憩時間の分散化により、食堂、売店、洗面所等での「密」を回避

在宅勤務の上半期実績 実施者5名 延べ31日（1/13～3/31 実施者6名 延べ37日）

県による「命と暮らしを救う集中対策期間」（9月3日～9月12日）は、事務室内の職員数を概ね5割削減できるよう、在宅勤務及び休暇取得を推進（理事長以下26名）

（在席率）

	平均	最大	最小
午前	56.4%	65.4%	46.2%
午後	56.4%	73.1%	42.3%

・県との連携体制強化及び迅速かつ適正な医療提供体制の調整等を図るため、看護職員1名を県（感染症対策課）に派遣研修（令和3年3月1日～令和4年3月31日）

・県からの要請を受けて、長野県健康観察センターへ業務応援を実施（8月25日～9月6日）
本部事務局の看護職員4名による交代制：延べ従事日数18日

・本部事務局及び本部研修センター職員（計24名）による信州医療センター正面玄関前での検温当番（交代制）の応援（5月6日～）

・オンラインによる職員研修の実施【再掲】

区 分	R 3 上半期実績	参加者数
課程別・選択・専門研修	11件	428人
シミュレーション教育指導スキルアップシリーズ	1件	10人

2-7-2 経営指標等

【損益計算書】

本部研修センター・本部事務局

(税抜、単位：千円)

科 目	R3 上半期 累計 a	R3 上半期 計画 b	対計画 増減 a-b	R2 上半期 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	22,528	24,436	△1,908	21,328	1,200
運営費負担金収益	20,160	20,160	0	20,956	△796
その他経常収益	2,368	4,276	△1,908	372	1,996
経常費用 (イ)	196,366	189,274	7,092	177,123	19,243
一般管理費	194,682	187,589	7,093	171,105	23,577
給与費	161,105	144,434	16,671	138,592	22,513
材料費	0	0	0	0	0
減価償却費	18,958	19,186	△228	15,077	3,881
経費	13,548	18,990	△5,442	17,016	△3,468
研究研修費	1,071	4,979	△3,908	419	652
財務費用	265	265	0	55	211
その他経常費用	1,420	1,420	0	5,964	△4,544
経常損益 (ア-イ)	△173,838	△164,838	△9,000	△155,795	△18,043
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	△173,838	△164,838	△9,000	△155,795	△18,043
コメント	<p>◆経常費用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給与費は、職員相談員の常勤配置（総務課）や本部画像診断センター（こども病院設置）の開設により増加 ・経費は、保守料削減による委託料が減少 ・研究研修費は、新型コロナウイルス感染症の影響による、旅費及び会場使用料等が減少 				

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。